

『後縦靭帯骨化症の祖父』

練馬区立中村中学校 第3学年 高松 知晴

「後縦靭帯骨化症」この病名を耳にしたことがあるのでしようか。僕の祖父は五十三歳の時にこの国指定の難病に罹りました。後縦靭帯骨化症とは脊椎を支える靭帯の一つである後縦靭帯が骨へと変化し、近くに位置する脊髄が圧迫される疾患です。圧迫される神経部位に応じた様々な症状が現れ、祖父の場合は手足のしびれや痛みがひどく「手を切り落として欲しい」とまで言っていたそうです。そんな祖父は初孫である僕の誕生を誰よりも喜び、だっこするときには「手を切り落とさなくてよかった」とも言っていたそうです。

僕が小学校6年生の時に祖父は亡くなりました。僕の祖父の思い出はたくさんあります。毎年夏休みに帰省すると祖父は不自由な手と足で僕の宿題の自由研究を手伝ってくれました。また、祖父は自動車会社に勤めていたのでよく自動車のことも教えてくれたり、手が不自由で文字が上手く書けないのでパソコンで年賀状を作って送ってくれました。

そんな祖父と税はとても深い関わりがあります。まず一つ目は、祖父は病気の影響で手足が満足に動かせなくなったので障害者となり税が免除されました。二つ目は、後縦靭帯骨化症は国が指定している難病なので東京都の医療助成を受けることができました。三つ目は、介護保険のサービスでベットのマットレスや車いすのレンタル、通所リハビリを受けました。四つ目は、国民健康保険で足につける補装具を作る費用の補助を受けました。僕はこのことを母から教えてもらったとき、祖父の身の周りにあったものがこんなに税金の協力でできていたことに驚いたと同時に感動しました。まさか祖父があの時飲んでいた薬や寝ていたベット、よく行っていたリハビリや車いすに税金が使われていたなんて知りませんでした。後縦靭帯骨化症という希な病気に罹った祖父にとって税金は大きな暮らしの支えになったと思います。僕はこの税の作文を書くまで税について興味も無かったし全くと言っていいほど知識が無かったので本当に今回知ることができて良かったし税に感謝することもできました。

しかしこの後縦靭帯骨化症という病気は遺伝子が発症に関係しているとも言われます。現に祖父の姉や祖父の甥もこの病気を発症しています。なので祖父の娘である母や孫である僕や妹も発症する可能性は一般の人よりも高いと考えられます。もし僕や僕の家族がこの病気を発症したとしても今回学んだ税と病気に関することを活かせば祖父のように精一杯病気と闘えるかなと思います。

最後に祖父は後縦靭帯骨化症という難病に罹ってとても大変だったけれどもそんな苦しい中で税の支えによって少しは楽になったのだと思います。今回このように祖父についても税についてもどちらも学ぶことができて本当によかったです。